

会議録（要点筆記）

会 議 名	令和7年度 第3回米原市社会教育委員会会議
開 催 日 時	令和8年1月28日（水）午後7時00分から午後8時30分まで
開 催 場 所	米原市役所本庁舎 会議室3DE
出席者および 欠席者	出席者：大谷委員長、福永副委員長、岩崎委員、河居委員、川崎委員、 澤村委員、清水委員、南家委員、馬淵委員、村瀬委員、和氣委員、 事務局：生涯学習課 平山課長、中村補佐、久保主査 欠席者：庄委員
協 議 事 項 等	・滋賀県社会教育研究大会、第2回理事会の報告について ・テーマ「米原の子どもの未来（仮題）」の調査報告
結 論 (決定した方針等)	・子どもの将来の夢や、やる気に繋がるきっかけとなる様々な体験を提供できないかを今後、会議や現場視察等を通じて検討する。
協議経過・概要	<p>1 開 会 ※半数以上の委員が出席のため、本会議の成立を報告 (12人中11人)</p> <p>2 課長あいさつ</p> <p>3 活動報告について 【資料】により事務局から説明 ○来年度の全国社会教育研究大会（兼近畿大会）について ・令和8年度は大阪で開催、全国大会と近畿大会を兼ねて実施する。 ○滋賀県社会教育研究大会について ・指導要領の2030年度改定により学校教育と社会教育のさらなる連携が見込まれる。</p> <p>4 テーマ「米原の子どもの未来（仮題）」の調査報告について 委員長) 奈良県のランドセル製造会社の見学へ行った。子どもが少なくなる中ランドセルでは会社が成り立たない。少子化を見据えた事業戦略が必要になってきている。教育振興基本計画の改定時期でもある、少子化を見据えて社会教育の観点から意見を具申しても良いのではないかと。 副委員長) 子どもには生きていく力を身に付けて欲しい。子どもだけ食事の準備ができるというのは大きな経験だと思う。衣食住に係わる体験を子どもに提供したい。 事務局) 岩崎委員が学校の空き教室活用について、検討していただいていたので報告する。河南中学校の空き教室で上丹生の木彫の作業をしてもらえないか状況確認を行ったところ、学校側には繁忙さ、木彫師側には仕事場</p>

以外で作業をすることの負担感があり、すぐに実施可能な状況ではなかった。学校と伝統工芸を結ぶ企画に魅力を感じているが実施には工夫が必要と感じた。

委員) 自治会長に子どもに向けた取組を聴き取りしたところ、多世代交流の取組として夏祭りを実施、手品や紙芝居をしている人材がいることがわかった。人材マップの作成に繋げたい。

学びあいステーションで子どもの料理教室をしているが、参加者が少なく、ニーズがあるところを知りたい。

委員) 子どもの未来とは何かを定義を確認したい。中学生が自主的に閉店見込の商店を盛り上げるためにカフェをしたいと申し出た話がある。あづち信長まつりではイベントの一部を中学生の発案に沿って取り組んでいる。子どもの自発性が無いと続かない、子どもに提供するだけでなく、子どもの自主性を促す、子どもの夢をかなえてあげる社会教育が必要だと考えている。

委員) 夏祭りも子どもが自発的に何かを取り組める機会になると考えた。検討してみたい。

委員) 子どもを主として動く仕掛けをするのが社会教育委員の仕事、学社連携から学社融合になかなか進まない。米原の木彫は素晴らしい技術、5年も学校で作品の制作過程を見続けたら子どもの中で誰かがその魅力に惹かれてやってみたいと思わせるのではないだろうか、その機会を提供したかったが、校長が大変忙しい現状ではなかなか実施が難しい。

子どものやりたいことを見つけられる機会を設けたい。

委員) 主体性を育む教育が必要と考えている。主体性とは自分のやりたいことを見つけて熱中できること。その気づきの機会を持つために自己理解のワークショップや起業家の人の話を聞く機会を設けることができるか良いのではないか。

委員長) 長浜のボランティア協会に登録している。子どもに腹話術を教えている。子どもに腹話術を体験してもらい子どもから発信できる場づくりの仕掛けをしている。

委員) 学校教育では学力を身に着けることが本来で、夢は100人いれば100通りある。社会教育で子どもが夢に気づけるなにかきっかけを提供したい。

委員) 子どもにやりたいことを聞くとゲームになる。様々な体験を子どもにしてもらいたい。

委員) 生きる力、学校が夢をつかむ力をどう育成できるか、地域の高齢者などから学ぶ機会があるとよい。学校が安心して呼べる人がいるとありがたい。

委員) 不登校の子どもが、地域の人があいさつしてくれるだけで安心してい

	<p>た。自らも子どもに安心してもらえる人間になりたい。不登校の子どもの居場所として農業塾が生かせないか、畑で落ち着く子どももいる。</p> <p>委員) 地元の伝統芸能、太鼓踊りを復活させたい。親子の絆に繋がる。</p> <p>委員) 子ども会連合会で体験イベントをした。本物を見るのは子どもにとって良い体験で、木彫や畳づくりを見てもらった。出張キッズニアというものもあると聞く、呼べると良いのではないか。</p> <p>委員) 先に子どもが自主的にカフェをしている話をしたが、補足すると中学生が経理以外のすべてをやっている。そのような活動ができるよう子ども達を導いてあげるような働きかけができないか。読書の推進など、子どもが自分で判断できる力を育てたい。</p> <p>委員) 子どもの主体性を育てるために思い切った仕掛けができないか。河南中学校で木彫りの技を披露してもらうことだけでもできればと考えている。</p> <p>事務局) 行政も事業から企業などの人材とのつながりがある、人材ニーズに対応できる可能性がある。子どもへのアプローチは小さなことでも影響がある。</p> <p>委員長) 皆さんの話を聞いて人材マップ作成が良いように感じた。</p> <p>委員) 人材を発掘するのであれば、活動もしたい。小さなものでも体験できる場が提供できないか。</p> <p>事務局) 昨年、イベントで畳の製作体験をしたが盛況であった。</p> <p>委員長) 子どもに体験してもらえる事業など何ができるか、次年度の活動について3月の会議で協議する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示 (根拠法令等:) <input type="checkbox"/> 非開示 (根拠法令等:)
全部記録の有無	会議の全部記録 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 録音テープ記録 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
担 当 課	生涯学習課 (電話 53-5154、内線 2146)